

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	5月の価格情報				6月の価格情報				入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月下旬までの見通し				「図の見方」		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			現時点の価格水準						
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		平均価格	今後の価格水準					
葉茎菜類	キャベツ	88.59 67.20	91 (135%)	88 (131%)	67.20 (116%)	78	・入荷量：15,197t ・主産地：千葉（50）、茨城（24）、群馬（10）、神奈川（6）	平均価格	↓	千葉産は、これまでの前進出荷傾向の影響で、現在少なめの出荷となっているが、今後は出荷終盤といふこともあり平年並みの出荷の見込み。茨城県産は、生育は順調であるものの、降雨により収穫が遅れていること及び前進出荷となっていた影響から、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、順調な生育となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格	↓	
		91.02 81.66	93 (114%)	105 (129%)	81.66 (110%)	90	・入荷量：3,836t ・主産地：茨城（40）、愛知（30）、長野（8）、兵庫（8）									
	たまねぎ	78.12 (93%)	73 (132%)	103 (100%)	78.12 (155%)	125 (160%)	・入荷量：10,740t ・主産地：佐賀（40）、兵庫（19）、香川（12）	平均価格	↓	・佐賀産は、天候不順による小玉傾向に加え、べと病等の影響により、引き続き平年をかなり下回る出荷の見込み。兵庫産は、出荷最盛期を迎える中で、べと病等の病害が発生しており、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は晩生が増加していくことから、平年並みの出荷となる見込み。香川産は、小玉傾向で、べと病等の病害の発生により、引き続き平年より少なめの出荷となる見込み。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格	↓	
		78.12 (100%)	78 (155%)	121 (209%)	78.12 (209%)	163	・入荷量：3,992t ・主産地：兵庫（57）、佐賀（23）、長崎（16）									
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	277.31 (161%)	447 (149%)	414 (140%)	277.31 (162%)	449	・入荷量：4,129t ・主産地：茨城（60）、千葉（19）	平均価格	↓	・茨城産は、降雨が少ないことから太りがあり良くないものの、生育はおおむね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、夏ねぎの出荷が本格化しており、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格	↓	
		334.73 (148%)	495 (142%)	476 (143%)	334.73 (143%)	479	・入荷量：213t ・主産地：徳島（27）、香川（24）、三重（14）、奈良（10）、高知（7）									
	はくさい	67.05 (82%)	55 (88%)	59 (113%)	67.05 (113%)	76	・入荷量：5,543t ・主産地：長野（55）、茨城（25）、群馬（18）	平均価格	↓	・長野産は、干ばつ気味ではあるが、病害の発生がみられないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、気温高で前進出荷となった影響から、例年より早めの6月上旬に出荷終了となった。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格	↓	
		74.06 (119%)	88 (122%)	90 (132%)	74.06 (132%)	98	・入荷量：2,789t ・主産地：長野（84）、茨城（10）									
	ほうれんそう	376.10 (120%)	450 (128%)	483 (129%)	376.10 (129%)	487	・入荷量：1,381t ・主産地：群馬（29）、茨城（27）、栃木（15）、岩手（13）	平均価格	↓	・群馬産は、最近の降雨で生育が回復し、現在平年並みの出荷となっており、今後気温が高くなることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であるものの、前進出荷の影響により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産及び岩手産は、天候に恵まれ生育はおおむね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格	↓	
		416.73 (124%)	518 (137%)	571 (135%)	416.73 (135%)	561	・入荷量：490t ・主産地：岐阜（72）、茨城（9）									
果菜類	レタス (結球)	156.23 (77%)	120 (91%)	142 (115%)	120.13 (115%)	138	・入荷量：8,174t ・主産地：長野（72）、群馬（21）	平均価格	↓	・長野産は、4月から5月にかけての気温高によりやや前進出荷傾向となっていたものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格	↓	
		165.00 (79%)	130 (101%)	167 (121%)	125.61 (121%)	152	・入荷量：1,833t ・主産地：長野（95）									
	きゅうり	189.84 (121%)	229 (130%)	247 (126%)	189.84 (126%)	240	・入荷量：7,221t ・主産地：埼玉（26）、群馬（19）、福島（15）、茨城（9）、千葉（8）	平均価格	↓	・埼玉産は、終盤期を迎えており、暖冬で草勢が良いことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。群馬産も、出荷終盤を迎えており、やや干ばつ気味ではあるものの、生育はおおむね順調であることから引き続き平年並みの見込み。福島産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。茨城産は、終盤期を迎えており、引き続き平年並みの出荷の見込み。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格	↓	
		186.08 (127%)	237 (131%)	244 (141%)	186.08 (141%)	262	・入荷量：1,653t ・主産地：富崎（22）、高知（16）、愛媛（14）、群馬（11）、福島（8）、香川（7）、徳島（6）									
	トマト (大玉)	230.55 (106%)	245 (112%)	258 (108%)	230.55 (108%)	248	・入荷量：9,208t ・主産地：栃木（19）、熊本（14）、千葉（13）、愛知（12）、茨城（12）	平均価格	↓	・栃木産は、終盤期を迎えており、前進出荷の影響から、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、一部の圃場で病害が散見され、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は夏作が増加していくことから、平年並みの出荷の見込み。熊本産は、終盤期を迎えており、前進出荷の影響から引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格	↓	
		239.96 (110%)	265 (113%)	271 (114%)	239.96 (114%)	274	・入荷量：1,853t ・主産地：熊本（46）、北海道（15）、愛知（8）、石川（7）									
	なす	311.92 (126%)	392 (127%)	396 (127%)	311.92 (127%)	396	・入荷量：4,087t ・主産地：高知（30）、群馬（15）、福岡（15）、栃木（11）、茨城（10）	平均価格	↓	・高知産は、病害の発生が多いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。福岡産は、平年並みの出荷となっているが、今後は前進出荷の影響で夏秋なすとの端境になることから、平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、露地物が干ばつ気味であるものの、作付面積が増加していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、後作の夏秋なすを含め生育が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格	↓	
		271.01 (137%)	372 (134%)	364 (133%)	271.01 (133%)	360	・入荷量：1,104t ・主産地：高知（25）、大阪（19）、福岡（13）、熊本（12）、岡山（7）									
	ピーマン	339.20 (110%)	372 (102%)	345 (120%)	276.65 (120%)	333	・入荷量：2,818t ・主産地：茨城（83）、高知（6）	平均価格	↓	・茨城産は、生育はおおむね順調で、平年並みの出荷となっているものの、今後は梅雨の影響で、生育が緩慢になると見込まれることから、平年よりもやや少なめの出荷の見込み。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格	↓	
		311.41 (108%)	335 (92%)	288 (97%)	293.32 (97%)	285	・入荷量：517t ・主産地：宮崎（29）、高知（28）、茨城（17）									
根菜類	だいこん	86.59 (111%)	96 (95%)	82 (76%)	86.59 (76%)	66	・入荷量：8,228t ・主産地：青森（54）、千葉（22）、北海道（16）	平均価格	↓	・青森産は、一部の産地で干ばつ気味であるものの、全体的には天候に恵まれ適度な降雨もあり、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、終盤を迎えており、これまでの前進出荷の影響から平年より少なめの出荷となっており、平年よりも早く6月末でおおむね出荷終了となる見込み。	生育及び価格の6月下旬までの見通し	現時点の価格水準				

種類		5月の価格情報			6月の価格情報			入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月下旬までの見通し		
		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		「図の見方」		
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬		現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格
いも類	さといも	-	396	474	361.20	584 (162%)	・入荷量: 273t ・主産地: 鹿児島 (58)、宮崎 (13)		<p>鹿児島産は、次期作の種イモの確保に加え、疫病が発生し、下等級品も多くなっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。宮崎産は、晴天時の一時期に集中して収穫が行われたことから、平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は収穫を後ろ倒して計画的な出荷となることから平年並みの出荷の見込み。</p>		
	ばれいしょ	-	567	591	347.90	583 (168%)	・入荷量: 51t ・主産地: 鹿児島 (63)、中国 (32)、宮崎 (5)		<p>宮崎産の出荷が平年並みと見込まれるもの、鹿児島産の出荷が平年より少なめの出荷と見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>		
	ばれいしょ	138.39 (134%)	186 (153%)	212	138.39 (150%)	208	・入荷量: 8,759t ・主産地: 長崎 (52)、静岡 (14)、茨城 (11)、千葉 (10)、熊本 (7)		<p>長崎産は、天候不順による植え付けの遅れ及び4月からの多雨による日照不足の影響から、引き続き平年よりも少なめの出荷の見込み。静岡産は、生育は順調で玉付きも良く、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、気温高で適度な降雨もあることから生育は順調で、や前進出荷となっていることから、平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。</p>		
	ばれいしょ	144.98 (130%)	189 (145%)	210	144.98 (146%)	211	・入荷量: 2,041t ・主産地: 長崎 (66)、北海道 (17)、熊本 (6)		<p>静岡産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれるもの、長崎産が平年よりも少なめと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>		

注: 1 平均価格は、過去6年間(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景色は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/k g、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。

5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。() 内は入荷シェアで前年実績である。

6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

種類		5月の価格情報			6月の価格情報			入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月下旬までの見通し		
		(参考)過去5年平均価格		東京・大阪市場の旬別価格	(参考)過去5年平均価格		東京・大阪市場の旬別価格		「図の見方」		
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬		現時点の価格水準	今後の価格水準	平均価格
洋菜類	ブロッコリー	313.45 (145%)	454 (133%)	416	371.45 (125%)	463	・入荷量: 1,683t ・主産地: 長野 (28)、福島 (14)、青森 (13)、米国 (11)、北海道 (7)		<p>長野産は、干ばつ気味ではあるものの大きな影響はなく生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、天候に恵まれ生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれ生育は順調で、作付面積も増加していることから、引き続き平年よりもやや多めの出荷の見込み。北海道産は、6月にかけて適度な降雨もあり生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</p>		
	アスパラガス	339.76 (123%)	418 (124%)	420	376.30 (119%)	449	・入荷量: 476t ・主産地: 長野 (28)、鳥取 (17)、徳島 (15)、香川 (12)、北海道 (5)		<p>長野産、福島産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれるもの、青森産の出荷が平年よりもやや多めと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回る見込み。</p>		
葉茎菜類	こまつな	214.35 (84%)	179 (107%)	230	253.63 (101%)	257	・入荷量: 962t ・主産地: 茨城 (39)、埼玉 (26)、群馬 (14)、東京 (10)		<p>茨城産は、作付面積が増加している中、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年よりも多めの出荷の見込み。埼玉産は、曇天が多く生育が一時停滞していたことから、平年よりもやや少なめの出荷となるが、今後は生育が順調であることから、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、作付面積が増加している中、天候にも恵まれ適度な降雨から生育は順調であることから、引き続き平年よりも多めの出荷の見込み。</p>		
	こまつな	167.98 (118%)	198 (130%)	218	205.03 (101%)	207	・入荷量: 294t ・主産地: 福岡 (76)		<p>埼玉産の出荷が平年並み、茨城産及び群馬産の出荷が平年よりもやや多め若しくは多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年を下回って推移する見込み。</p>		

注: 1 平均価格は、過去5年力年(平成23~27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/k gである。

3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景色は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。

5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。() 内は入荷シェアで前年実績である。

2 トピック 一なすの需給動向等について

今回は、こらから本格的な旬を迎える代表的な夏野菜の一つである「なす」について紹介する。

なすは、インド東部が原産といわれ、日本へは中国を経由して渡來したと言われている。日本では、奈良時代の「正倉院方書」になすを献上したという記述があったことから、8世紀ごろにはすでに栽培されていたとみられ、古くから日本人にとってなしが深い野菜である。

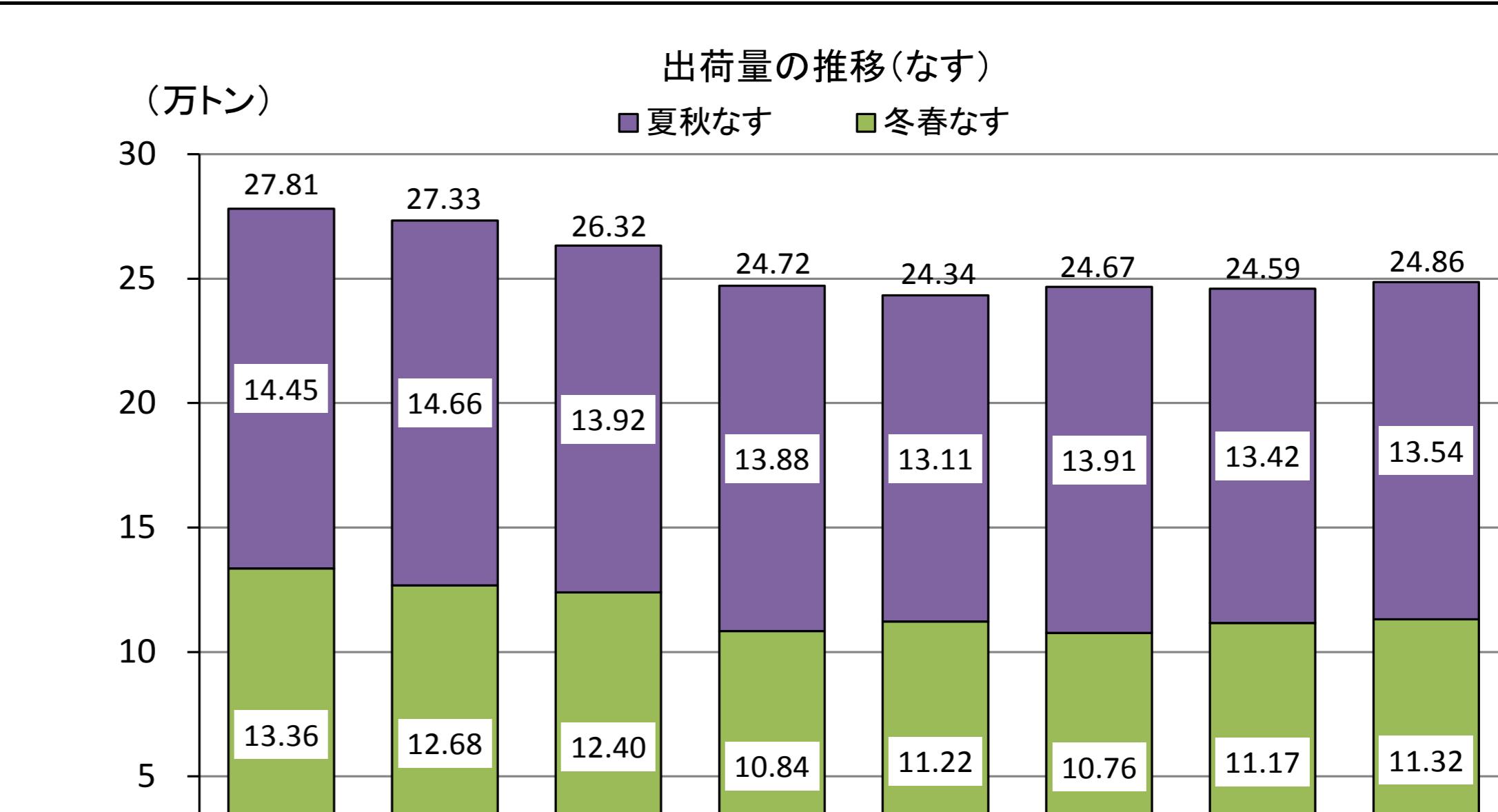
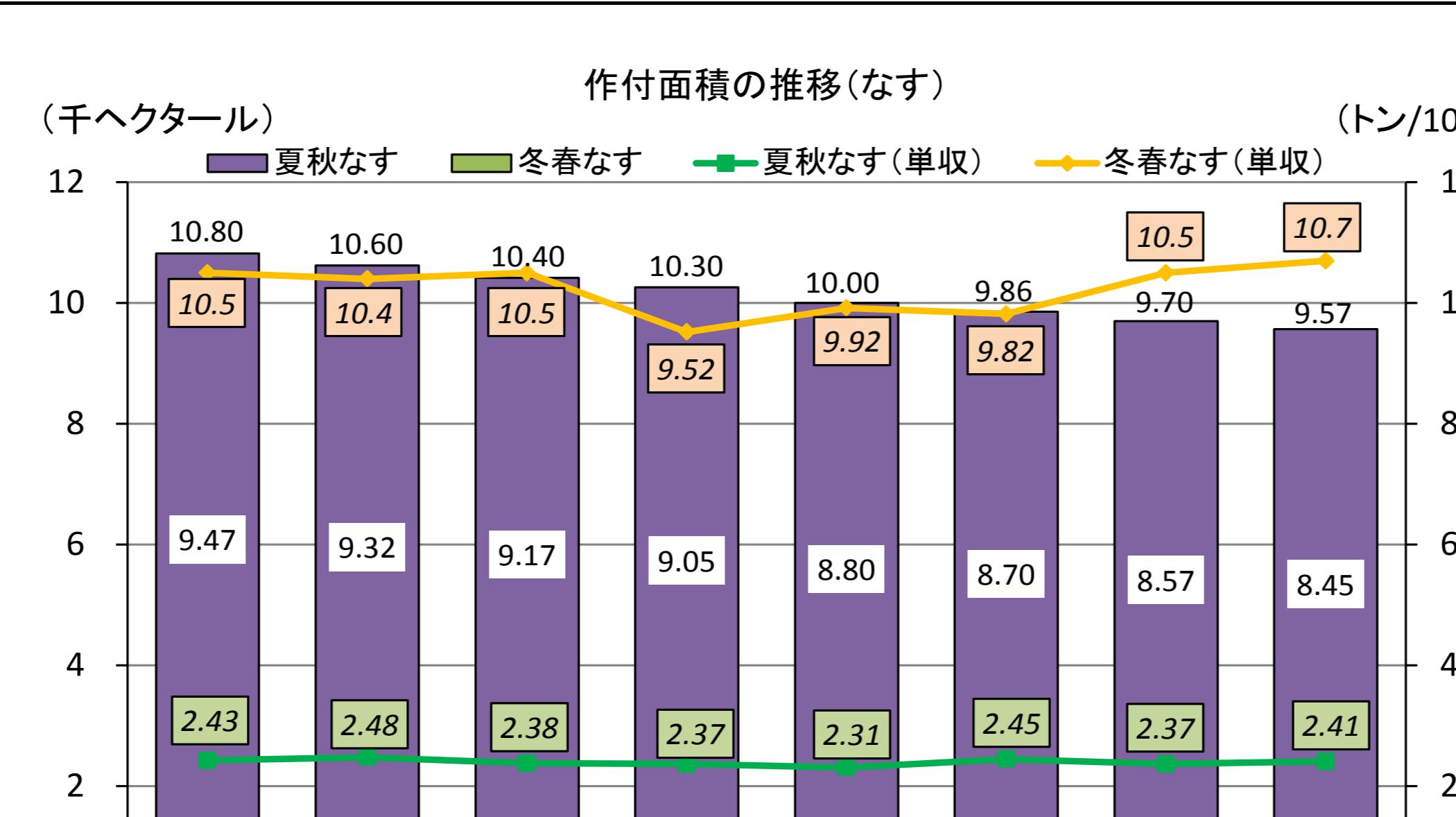
なすは、鮮やかな青紫色を表して、「なす紺」と言ったり、「一富士二鷹三なすび」「秋なすは嫁に食わすな」「瓜の蔓に茄子はならぬ」「茄子の花と親の意見は干に一つも仇はない」などといったことわざが多く、日本人の生活習慣と深い関係を持ち、庶民の野菜として親しまれてきた。

果実の大きさと形により、長卵形なす、長なす、大長なす、丸なす、小なす、米なすなどに分類される。地域別にみると、東海・関西の長卵形なす、関西以西の長なす、九州の大長なすなどを主として、北陸・京の丸なす、山形の小さななど地方独特の品種も多く見られる。現在では、多くの品種の中でも、栽培が容易で用途の幅が広い長卵形から中長の品種が全国的に主流となっている。

旬は6月から9月ごろで、出荷時期により、冬春なす(12~6月)と夏秋なす(7~11月)に区分されており、施設栽培の普及や栽培技術の向上により周年供給体制が構築されている。

そんななすも、食生活の欧米化とともに消費が減退し、作付面積、出荷量ともに減少傾向にある。作付面積は、平成19年の1万800ヘクタールから26年の9570ヘクタールと11%減少しており、出荷量も同様に27万8100トンから24万3600トンと11%減少している。都道府県別にみると、冬春なすは、温暖な西南暖地で施設栽培により生産されており、高知県(3万7100トン)が最も多く、次いで熊本県(2万3900トン)、福岡県(1万5600トン)と、この3県で全国の7割を占めている。夏秋なすは、首都圏近郊で主に露地栽培により生産されており、茨城県(1万4300トン)が最も多く、次いで群馬県(1万4100トン)、栃木県(1万300トン)と、この3県で全国の3割を占めている。

作付面積では、冬春なすが全体の12%、夏秋なすが88%なのに対し、出荷量は冬春なすが46%、夏秋なすが54%と、冬春なすが、全体のわずか1割程度の作付面積で全体の5割近い出荷量を占めており、施設栽培における単収(冬春なす: 1万700kg/10a、夏秋なす: 2410kg/10a)の高さがうかがえる。



資料: ベジ探(原資料: 農林水産省「野菜生産出荷統計」)

